

中期目標・計画

SSF ビジョン2030

中期目標・計画策定の背景

笹川スポーツ財団(以下、SSF)は設立から30年、前回の中期目標「GOAL 2025」の策定からも5年が経過しました。その間、私たちを取り巻く環境には大きな変化が2つありました。

社会情勢の変化

スポーツ界にも大きな影響を与えたパンデミックは終息を迎えましたが、過去15年にわたりわが国における多くのスポーツ関係者の共通目標であった東京2020大会は1年延期・無観客開催となり、期待していたものとは異なる形で節目を迎えました。

その後スポーツ庁は、第3期スポーツ基本計画を策定し、とくに「地域における日常的なスポーツ環境の拡充」に重点を置いています。SSFも2017年に「地域スポーツ運営組織(RSMO)」の提言を行いました。現場の課題は今なお深く、より密着した支援と持続可能な地域スポーツ推進体制づくりが求められています。

SSF自身の変化

シンクタンクとしての歩みを始めて14年。設立以来30年続く「スポーツライフ・データ」を軸に、誰も手をつけなかった領域に取り組み、少しずつ世論や政策にも変化をもたらしてきました。

一方で、自治体向け住民総参加型プログラム「チャレンジデー」事業は終了し、新たに「スポーツを通じたまちづくり」を掲げたアクティブシティ推進事業が2024年度から本格的にスタートしました。

こうした大きな節目を迎えたいま、私たちは改めて、社会のニーズと自らの強み・弱みを見つめ直し、公益財団としてどのような道を歩み、ミッションの実現を目指すのかを問い直す必要があると考えました。

その答えの一つとして策定したのが、次期中期目標・計画「**SSFビジョン2030**」です。

ミッション Sport for Everyone社会の実現について



Think × Do の両機能・資源(タンク)を有機的に組み合わせることを通じて、Sport for Everyone社会の実現を目指す。

* Sport for Everyone社会とは、日本に暮らす一人ひとりが自分の志向やライフスタイルに合ったスポーツ活動(する・みる・ささえる)を楽しみ、そこに幸福を見出す社会を指す。

Sport for Everyone社会の2つの側面

- ① 日本に暮らす一人ひとりが生涯を通じて、それぞれの望むかたちでスポーツを楽しみ、幸福を感じ続けられる

誰もが、それぞれのライフステージにおいて、スポーツを望むかたち(する・みる・ささえる)で楽しみたいと考えたときに、多様な選択肢(受け皿)が用意されており、その中から自分に合った楽しみ方を主体的に選ぶことができ、スポーツを通じて人生の豊かさ、幸福感を感じ取ることができる社会の実現を目指す。

- ② スポーツには「多様な社会課題の解決に資する側面(=価値)がある」と日本に暮らす一人ひとりが認識している

誰もが、スポーツには「多様な社会課題の解決に資するという側面(=価値)がある」と認識した上で、その価値が最大化され、みんなが明るく健康的に生きられる社会の実現を目指す。

SSFビジョン2030:SSFが実現を目指す「姿と方向性」

目指す姿：社会変革を実現するスポーツシンクタンク -研究と実践の好循環を拡大-

SSFビジョン2030では、まず各部門や担当者のレベルで、特定のテーマにおいて研究から実践への連携を実現する「研究・実践循環モデル」の増加を短期的な目標とする。

「研究・実践循環モデル」の実績が蓄積された上で、最終的には、部門の垣根を超えた連携体制を構築し、組織全体としての研究・実践循環モデルを実現し、好循環の輪を更に拡大することで「社会変革を実現するスポーツシンクタンク」を目指す。

目指す方向性：持続可能な新たな地域スポーツ推進環境の構築

地域スポーツの現場においては、急速に進む少子高齢化などを背景に、スポーツ活動への参加者とそれをささえる担い手、スポーツを楽しめる場や時間は減少している。加えて、施設の老朽化、財源の不足など、既存の地域スポーツ推進環境は厳しい現状に直面している。また、各地域それぞれの事情やスポーツ参加者の属性(子ども／高齢者／女性／働く世代／障害者など)によっても課題は異なる。

SSFは2017年に政策提言の一環としてRSMOの概念を提唱し、これに賛同した宮城県角田市と連携協定を結び、実践研究を重ねてきた。また、障害者スポーツや子どものスポーツについても、研究活動にとどまらず、現場のプレーヤーと連携し、研究調査の結果が実践の場で活用されるよう努めてきた。さらに2024年度からは、スポーツに限らず地域のまちづくりに携わる多様なプレーヤーを巻き込み、地域課題の解決に取り組む「アクティブシティ推進事業」を開始した。

これらすべての事業に共通する要素である「持続可能な新たな地域スポーツ推進環境の構築」をSSFビジョン2030で目指す方向性として掲げる。

*研究調査事業においては、従来の重点テーマ(健康とスポーツ、障害者スポーツ、子どものスポーツ、スポーツガバナンスなど)に基づく、国全体のスポーツ施策や方向性に対する提言の策定や議論喚起も見据えた各種研究ユニットによる活動にも継続的に取り組む

SSFビジョン2030実現に向けた全社アクション

SSFビジョン2030の実現に向けて、組織として取り組むべきアクションを以下に示しています。

分類	重点施策	アクション
組織運営基盤の強化	1. 経営の強化	(a) ミッション・中計・行動指針の職員理解促進・浸透
		(b) 中計の運用・評価体制とプロセスの整備
	2. 組織運営基盤の強化	(c) コンプライアンス体制の強化
		(d) 人事戦略立案機能の構築および各種人事施策の検討・実施
		(e) ナレッジシェア／マネジメントの仕組み検討・整備
	3. 既存事業・業務の見直しと最適化	(f) 事業ポートフォリオの定期的な見直し
		(g) 定期的な業務運営の検証
新たな取り組みの展開による事業加速	4. 社外連携の強化	(h) 外部組織との戦略的な連携
		(i) 日本財団および関連団体との戦略的な連携
	5. SSFビジョン2030実現に向けた事業強化	(j) 研究調査事業の強化
		(k) アクティブシティ推進事業の強化
		(l) 広報・発信機能の強化

* ここで示すアクションは、各年度の事業計画・収支予算に定めた既存事業と並行して実施するものである

ステークホルダーの皆様へ

私たちが目指すSSFビジョン2030、そしてその先にあるSport for Everyone社会の実現と、社会変革の実現は、笹川スポーツ財団だけの力では到底、成し得ません。

このSSFビジョン2030に共感し、ともに歩んでくださる皆様とパートナーシップを築いていきたいと考えています。

連携の対象は、地方自治体や学術関係者だけにとどまりません。私たちが共に取り組みたいのは、地域スポーツの推進環境に関わるあらゆるプレイヤーの皆様です。

- 行政、競技団体、スポーツ協会、スポーツクラブ／チーム、スポーツコミッション、大学・学術機関、民間企業、NPO など

さらに、スポーツ推進に携わる方々に限らず、健康・医療、福祉、教育、その他の分野でまちづくりに関わるプレイヤーの皆様とも、積極的に連携していきたいと考えています。

本ビジョンに共感いただける方は、ぜひ以下より私たちにご連絡ください。

- ▶ 財団WEBサイト:<https://www.ssf.or.jp/index.html>
- ▶ お問い合わせ窓口:<https://www.ssf.or.jp/contact/inquiry.html>